

港区史編さんの基本的考え方について

参考

平成28年6月28日
第2回区政70周年記念事業推進委員会

1 港区史編さんの目的

港区政70周年を記念して、区民とともに永く語り継がれる、「区民一人ひとりが誇りに思える成熟した国際都市」として価値ある港区史を編さんします。

2 港区史編さんの基本的考え方

1 これまで歩んできた区の歴史を通史として、歴史的価値のある区史編さん

港区では、これまで昭和35年に「港区史」を刊行し、昭和54年に「新修 港区史」を刊行してきました。その後、歴史についての研究が進み、港区に関する歴史資料・情報の質量は大幅に増えています。本年度区政70周年を迎えるのを契機に、学術的視点により修正、加筆した新たな港区史を編さんし、これにより通史としての港区史を完成させ、後世に語り継いでいきます。

また、昭和52年以降の港区の歩んできた歴史を検証・加筆し、区の行政史も整理します。

今後は、新たな歴史の研究や検証に基づく資料の収集を継続的に行い、港区史の歴史的な検証を10年に1度実施します。

2 区民の視点や活力をいかし、区民が愛着をもてる区史編さん

平成18年に区役所・支所改革を実施してから10年が経過し、地域の歴史を研究する区民参画組織もあり、活動も活発化しています。これらの組織が作成してきた資料を活用したり、情報提供を得るなど区民の視点や活力をいかし港区史を編さんします。

さらに、区史編さんの過程をホームページで公開し、ご意見や資料の提供の協力を呼びかけるなど、区民が区史編さんに興味を持ち、愛着を持てるような区史の編さんとします。

刊本としての港区史とは別に、区民等が読みやすい普及版を作成します。また、区立学校等の副教材として活用できるようにします。

3 港区の魅力を国内外に積極的に発信する魅力にあふれる区史編さん

最新のICT(情報通信技術)を活用し、港区史をデジタル化し、インターネット上に公開(英語訳も作成)することにより、国内外を問わず誰もがタブレットやスマートフォンで手軽に港区史を閲覧できるようにします。デジタルアーカイブシステムを活用し、新たな自治体間連携にも役立つようにします。

また、港区史と郷土資料館の収蔵資料をリンクさせることにより、港区史の中で記述のある郷土資料について区民が身近に感じられる魅力ある港区史とします。

3 過去2回における港区史について

港区史

1 刊行経緯

- ・昭和32年3月、港区創立10周年を迎える。港区創立10周年記念事業として慶應義塾大学文学部関係者の協力により編さん・刊行
- ・中西清太郎区長及び区議会議員全員一致の発議協賛により着手

2 刊行年月日 昭和35年3月15日

3 構成 装丁本 2巻(上巻、下巻)

《上巻》1,136頁

第1編 序説(第1章)位置・面積・地勢・地質・気象(第2章)地域(第3章)芝麻布赤坂の三旧区名および港区名の由来

第2編 街史(第1章)市街発達の概要(第2章)各町の起源と変遷

第3編 原始時代、古代、中世(第1章)原始時代(第2章)古代、中世

第4編 近世(第1章)江戸幕府(第2章)町政(第3章)戸口(第4章)貢税と七分金積立(第5章)産業・経済(第6章)教育・文化(第7章)交通、運輸、通信(第8章)上・下水道(第9章)災害、救済(第10章)寺社と信仰(第11章)花街、娯楽(第12章)幕末の諸事件と港区地域

《下巻》1,654頁

第5編 近代(第1章)区制沿革(第2章)区会(第3章)行政(第4章)戸口(第5章)財政(第6章)税制(第7章)教育・文化(第8章)産業経済(第9章)土木(第10章)建築(第11章)港湾(第12章)交通・運輸・通信(第13章)公安(第14章)社会福祉(第15章)衛生(第16章)労働(第17章)兵事(第18章)災害(第19章)宗教

第6編 現代(第1章)港区の発足(第2章)区議会・公議会(第3章)行政(第4章)人口と世帯数(第5章)財政(第6章)税制(第7章)教育・文化(第8章)産業・経済(第9章)土木(第10章)建築(第11章)港湾(第12章)交通・運輸・通信(第13章)公安(第14章)社会福祉(第15章)衛生(第16章)労働(第17章)災害(第18章)宗教(第19章)花街・娯楽

4 港区史編纂委員会(22名) 昭和32年8月設置

(委員長)助役(副委員長)総務課長(委員・監修)大学教授(慶應義塾大学文学部長)

(委員:19名)

都政史料館東京都調査員、区議会議員13名
収入役、教育長、麻布支所長、赤坂支所長、高輪支所長

新修港区史

1 刊行経緯

- ・昭和52年3月、港区創立30周年を迎える。
- ・港区創立30周年記念事業の一環として、慶應義塾大学をはじめ関係機関の協力により編さん・刊行

2 刊行年月 昭和54年5月

3 構成 装丁本 1巻(旧港区史の叙述下限である昭和32年以降の記述に重点をおくこととした。)

第1編 1~658頁

(第1章)自然の歴史(第2章)先史時代(第3章)古代(第4章)中世(第5章)近世(第6章)近代

第2編 659~1459頁

(第1章)市街の変貌と生活の諸相(第2章)人口と社会(第3章)議会と行政(第4章)税財政と予算(第5章)環境と安全(第6章)産業と流通(第7章)教育・文化(第8章)労働と福祉(第9章)町域の歴史

4 港区史編集委員会(10名) 昭和52年8月 「港区史編集委員会設置要綱」に基づき設置

(委員長)助役(副委員長)収入役

(専門委員:5名)大学教授3名、東京都公文書館館員、麻布支所長(俵元昭)

(委員:3名)大学講師、教育委員長、総務部長

5 編集方針 港区編集委員会において、編集方針を策定

- 一 現代史の流れのなかに、港区創立以後の状況をたどり、その実情を究明し後に残すことに重点をおく。
- 二 特に、高度経済成長期を境とする変化と、東京都全体および他区との比較において、港区の特色を明らかにする。
- 三 旧港区史の内容についても、今日にふさわしい改訂を加えて記述する。
- 四 できるだけ平易な表現を用い、広くかつ興味深く愛読されるものとする。
- 五 図版・写真を豊富にとり入れて、親しみやすいものとする。